公益信託世田谷まちづくりファンド

第３１回助成事業　　審査講評

つながりラボ部門

＜６－１　ひきこもり居場所カフェ　ｉｎ下北沢＞

・拠点をもったことをきっかけに、まちづくり活動部門の先の一歩としてさまざまな可能性が広がっていくと思います。新たな活動が現在進行形で生まれ続けている下北沢という街で、ラボ部門だけで３つの活動が動いています。お互いの場を生かし合うことはもちろん、団体同士の横のつながりが新たな人の関わりを生むことに期待しています。

＜６－２　一般社団法人シモキタ園藝部＞

・ 街の中に居場所がない９８％の人を対象としているという着眼点がシモキタならではだと思いました。そのような人たちに植栽維持管理に留まらずコンポスト（キエーロ）、ワークショップ、シモキタ園藝学校、ちゃやの運営、古樹屋、シモキタハニーという活躍の機会を創発していることに素直に感動しました。すでに規模も大きいので助成を必要としていないのではという問いかけにも、明確にビジョンが描けているため多角的な事業を約180人で有機的に運営しつつ、やりたいことを実現するには300人必要でまだまだ人もお金も足りていないという回答にも納得感がありました。

＜６－３　下北沢 リンク・パーク＞

・家の間取りをちょっと変えたら、家族の会話が増えた、というように、街の物理的条件を改善することで街が良くなる、という当たり前のことが見過ごされがちで、道路予定地が長期間空き地のままであることに、無頓着であることもその表れだと思います。そこにアプローチした活動として高く評価されるべき活動と思います。その上で、なにもなかったところに座れるモノを設置したら良くなった、のその先、どう設置するとどういう効果が見られるか、など、他の場所で他の人たちがやろうとした時に参考にできるよう、試行錯誤を続けてきた実践者ならではの知見の共有にも力を割いていただけたら嬉しいです。

＜６－４　岡さんのいえ　ＴＯＭＯの会＞

・ 世田谷を代表する居場所「岡さんのいえ」の強みが、スタッフが「よそ者」であることは新たな気づきを頂きました。地域のしがらみがない中で活動が出来たことで様々な立場の人が混ざっていける土台が醸成されており、その土台を最大限活かすために、より誰でも立ち寄れるためのハード面の改修に着手することにミッション達成への強い意志を感じました。

＜６－５　ＮＰＯ法人　砧・多摩川あそび村＞

・あそび村にやってくる子どもたち、大人たちの声に耳を傾け、少し外れたこともやってみる、やってみてもらう、そんなラボになると素晴らしいと思います。

＜６－６　一般社団法人ななつのこ＞

・ 居場所事業は主催者の個性が強く現れるものに目が行きがちですが、「特定の誰かに頼らない現場運営」「地域の人が主役」という考えのもと真摯に運営した持続可能な事業型コミュニティスペースのモデルとなることを期待します。また、既存のコミュニティ・カフェ、レンタルスペース、シェアキッチンの運営に留まらず、中間支援機能を持続可能なものにし、（仮称）烏山みんなで地域づくりセンターを是非実現してください。

＜６－７　一般社団法人グリーフサポートせたがや＞

・多様な喪失感をグリーフとして考えること、そしてサポートする活動の広がりを多くの人に知ってもらうことで、これまでは思いもかけなかったところに、さまざまな出番が眠っているのではないかと思います。皆さん自身がつながりラボとして動くことで、新たなつながりを生み出していくことに期待しています。

＜６－８　一般社団法人おやまちプロジェクト＞

・ 改めてつながりラボ（タタタハウス）の強みは想いを持った人たちが訪れ、その想いをプロジェクトに昇華するコミュニティマネージャーの存在にあると思いました。今後つながりラボの概念を拡張し商店街を中心に街全体をラボと見立てて取り組む際に創業メンバーが担ってきたコミュニティマネージャーをどのような戦略で増やしてくのかラボのさらなるチャレンジに期待しています。

＜６－９　NPO法人子育て支援グループａｍｉｇｏ＞

・この1年でさまざまな独創的な活動が芽生え、多くの人のつながりを生み出していることに大きな可能性を感じました。それぞれの活動をやりたい人が支え、さらにやりたい人が増えていることから、さらなるつながりの連鎖や、これまで一歩がなかなか出なかった人と、楽しい体験でつながる仕組みづくりをしていってください。